

令和6年度青森市社会資本整備評価委員会 会議概要

1 開催日時

令和6年11月19日（火） 9:30～11:45

2 開催場所

青森市役所 本庁舎3階 会議室3

3 出席者

《委員》

委員長 足達 健夫

副委員長 松田 英嗣

委員 大坂 美保、黄金崎 勉、松井 克明 計5名

《事務局》

都市整備部 部長 中井 諒介、理事 土岐 政温、

次長 櫻田 文明

都市整備部 都市政策課 課長 武田 泰孝 外2名

《案件担当課》

都市整備部 都市政策課 課長 武田 泰孝 外3名

都市整備部 公園河川課 主幹 對馬 正幸

都市整備部 道路建設課 課長 小田 一彦 外1名

経済部 地域スポーツ課 主幹 成田 嘉廉 外1名

都市整備部 住宅まちづくり課 課長 小鹿 正憲 外2名

4 審議案件

《社会資本総合整備計画事後評価》

- ・案件第1号 人口減少・少子高齢社会に対応した青森駅周辺の交通環境改善（防災・安全）
- ・案件第2号 都市再生整備計画青森駅周辺地区
- ・案件第3号 地域の安心を支えるにぎわい拠点の形成
- ・案件第4号 都市再生整備計画青森操車場跡地周辺地区
- ・案件第5号 青森駅周辺地区における高次な都市機能の集積による住環境整備
- ・案件第6号 青森駅周辺地区（中新町山手地区）における高次な都市機能の集積による住環境整備

5 案件資料

《社会資本総合整備計画事後評価》

- ・説明資料

6 会議概要

社会資本総合整備計画事後評価について案件第1号～第6号の審議を行ったが、市の評価結果に対し異論はなかった。

以下、主な意見、質疑応答の内容。

発 言 者	内 容
	【案件第1号 人口減少・少子高齢社会に対応した青森駅周辺の交通環境改善（防災・安全）】 【案件第2号 都市再生整備計画青森駅周辺地区】
委 員	提案事業で試験的に東側ルートのシャトルルートバスの運行をしたようだがその結果はどうだったか。
都市政策課	平成30年7月21日から8月19日までの30日間、1日15便を運行し、計3,435人送客した。 またこの翌年にはこの交付金ではなく、市の単独事業で社会実験をしており、7月20日から10月20日までの93日間、1日8便を運行し、計2,710人を送客した。 この実証実験の結果、今現在運行している西側ルートと比較し利用者が少なかったこと、運行距離が長く目的地に行くまで時間がかかってしまうなどの利用者意見があったこと、運行経費も相当かかることなどを総合的に勘案し、現在浅虫温泉や昭和大仏などの東側ルートは運行していない。
委 員	今年度40隻クルーズ船が寄港しており、浅虫や昭和大仏は需要が高いと思うので、将来的に手立てを考えていただきたい。
委 員	駅前が明るくなり賑わいを感じている。西口駅前広場などの整備は街が発展していく一つの要素になっていると感じるので、今後もいろいろ計画をお願いしたい。
都市政策課	ハード整備は一旦完了したが、今後は完成した施設を活用し、更なる賑わい創出のためソフト事業にも取り組んでいきたい。
委 員	東口と西口の役割・機能分担についてどう位置付けているか。 また、指標の評価値について、令和5年度の実績値を使用しているが令和6年度の実績値だと駅前が整備されているので、もう少し増えているのではないか。
都市政策課	東口と西口の役割・機能分担について、ねぶたん号は、現在、青森駅西口を起点としたフェリーターミナル及び新青森駅をつなぐ大回りルートと、新青森駅東口を起終点とする三内丸山遺跡や県立美術館をつなぐ小回りルートの2ルートを運行しており、青森駅東口を起点とする運行は現在ない。 東口駅前広場に負荷がかからないようにするため、西口駅前広場を活用して、ねぶ

発 言 者	内 容
	たん号のみならず、市営バス、市バスも乗入れしている。 また、指標の評価値について、指標 1 は、令和 6 年度実績値が 14,770 人で令和 5 年度実績値よりさらに増えており、指標 2 は、年間の観光施設入込客数のため、今まさに計測中であるが確認したいと思っている。
委 員	効果発現について、その他様々な環境変化が要因となっているようだが、商工会議所の移転はいつだったか。
都市政策課	平成 30 年で、この整備計画期間中での移転である。
委 員	青森駅周辺は賑やかでいいなと感じるが、賑わい創出を目的としたのはどのような背景からか。
都市政策課	青森駅周辺地区は青森市の古くからの核的な存在であり、拠点として発展してきた場所であり、市として人が集まる環境を整備することにより、広く市民の方々に利用していただきたい。
委 員	中心部に目を向けることはいいこと。いったん郊外に出た人が中心部に戻るきっかけとなり意味があると感じる。
都市政策課	本市の都市づくりの目標であるコンパクト・プラス・ネットワークの考え方は、郊外の全ての人を中心部に集約するというのではなく、無秩序に広がらないようにするといった意味もある。 郊外の方が現在の土地に居住することを否定するものでもなく、都市機能が充実している中心部も活用してほしいし、中心部への一極集中を目指すものでもなく、他にも都市機能の整備が進んでいる地区などを公共交通でつなぎ、多極ネットワーク型のコンパクト化を目指すというものである。
委 員	観光客にとっても地域住民にとっても歩きやすいまちができると、イベントなどの使い方がより分かりやすくなると思うが、青森駅周辺のウォーカブルはどのくらい意識しているか。
都市政策課	昨年度から県、国、商店街、警察署などとウォーカブル勉強会を開催し、道路空間の使い方などについて意見交換を重ね、利活用に向けた取組を実施している。特に、自由通路も道路となっており、そこで 10 月に社会実験の一環で J R 東日本が実施したイベントも好評で、今後も継続していきたいと考えている。
委 員	この事業は商店街やコンパクトシティなど広く影響があるが、直接的には駅を挟んだ東西の交通量がどう変わったか、駅西側住民の生活がどう変化したのかという視点

発 言 者	内 容
	で、もっと直接的な効果がカウントできれば、より良かったと思う。
委 員	【案件第 3 号 地域の安心を支えるにぎわい拠点の形成】 【案件第 4 号 都市再生整備計画青森操車場跡地周辺地区】 屋内の安全に遊べる子どもの遊び場ができて大変よい。 設置された防災備蓄倉庫に備蓄している物資の対応できる人数や量はどれくらいか。
地域スポーツ課	総務部の管理であるが、アルファ米やストーブ等 4,000 人分の物資 1 日分をストックし、アリーナから供給できる対策を取っていると伺っている。
委 員	整備されたトイレは国際スフィア基準は満たしているのか。また、防災備蓄倉庫には簡易トイレは備えられているか。
地域スポーツ課	総務部の管理であるが、災害時のトイレについては、マンホールトイレを 20 基確保しているほか、簡易トイレもストックしている。
道路建設課	トイレの基準については、国土交通省が定めている高齢者障がい者に配慮した建築設計基準があり、それに準じて設計している。この設計基準は 2020 年東京オリンピックパラリンピック開催時のバリアフリー化とユニバーサルデザインの推進に配慮したガイドラインを受け、見直し・改正された内容であり、海外の方も不自由なく使用できると考えている。
委 員	指標 3 の安心・安全性に関する満足度が下がっているが、周辺住民はアリーナが防災に関係した施設だと知っているのか。
都市政策課	整備に当たり地元町会や専門家を含め有識者会議を立ち上げ整備コンセプトを決めているので知っているものだと考えている。
委 員	この指標に使ったデータが、住民はアリーナが防災施設だとわかって回答したのか、青森市全体について回答したのかはわからない。やや評価値が下がっており、間接的なデータになっているのではないか。
委 員	この調査が令和 6 年 5 月に行われたもので、石川県の地震とか大きな災害があり、危機感が高まっている中での調査だったため評価値が下がったのではないか。 青森県の公共施設は郊外に点在しているなか、青森市の街の真ん中にアリーナといった施設ができるのはとてもいいと思う。 今後の方針にも出てくるが新駅ができるのは便利。自由通路とは駅の自由通路か。

発 言 者	内 容
都市政策課	線路をまたぐ歩行者専用道路として駅に併設し、一体として使用できるような施設の整備を想定している。
委 員	新駅は、自分の理解では北側にできると考えているがどのように新駅と自由通路を整備するのか。
都市政策課	詳細については決まっていない。青い森鉄道線の駅舎は県の施設であるため、市はあくまで鉄道事業者である県に対し整備を要望している段階で、どのようになるかは現時点では決定していない。
委 員	新駅に合わせて市が自由通路を整備するということか。
都市政策課	自由通路を整備できればよいと考えている。
委 員	今後この周辺の道路混雑が予想される可能性が出てくると思うが、新しい整備計画はないのか。
都市政策課	今回の整備計画による道路等の整備は、これで一旦終了であるが、今後、新たな整備の必要に応じて、今回のように別途整備計画を作成し、整備を進めていくこととなる。
委 員	道路整備も安心安全につながるので、そこは先回りする形で整備することがよいと思う。 あとは、若い家族がいかに住みやすいかということを意識された方がよいのではないか。市民意識調査は年齢別で集計しているようなので、若い方の流出をいかに防ぐかを考えて、若い方の満足度と安心安全というところを意識した統計結果をとらえるにより説得力が増すのではないか。 特にアリーナ、セントラルパークは、若い方にとっては魅力があり注目していると思うので、若年層の声を集めるともっと満足度が高いのではないかと思う。
委 員	旧青森市民体育館はもう使用していないのか。
地域スポーツ課	アリーナの開館に合わせ、本年6月末に閉館している。
委 員	旧青森市民体育館の利用者調査データがあればもっとはっきりした比較ができたのではないかと思う。

発 言 者	内 容
委 員	官民連携型賑わい拠点創出事業とはなにか。
公園河川課	公園の整備の一部を民間事業者に担っていただくもの。公園の整備費の一部を負担していただくことによりそのインセンティブとして、公園内に民間施設の設置を許可するスキームとなっている。
委 員	それはどのような施設か。
公園河川課	カフェとスポーツクラブの２店舗が設置されている。
委 員	【案件第５号 青森駅周辺地区における高次な都市機能の集積による住環境整備】 【案件第６号 青森駅周辺地区（中新町山手地区）における高次な都市機能の集積による住環境整備】 13 ページの事業概要に「帰宅困難者支援」とあるが具体的にはどのような支援なのか。
住宅まちづくり課	「防災・省エネまちづくり緊急促進事業」にはタイプが２つあり、青森市が活用したのは「地域活性化タイプ」で資材高騰等、再開発事業者が負担した一部を国が支援する制度を活用したもの。もう一つの「政策課題対応タイプ」の中に帰宅困難者支援対策が含まれているが、こちらは活用していない。
委 員	指標の４地点の歩行者通行量が下がっているが、具体的にどこか。観光客が通る所と居住者が通る所は違う可能性もあり、観光客が増え居住者が減っている気がする。この事業については居住者が通るルートの指標が必要になるのかなと思う。
住宅まちづくり課	４地点の場所について、１か所目はパサージュ広場前、２か所目は中新町のドコモショップ前、３か所目は THREE から新町通りに向かう途中、４か所目は旧青森国際ホテルがあった場所のニコニコ通り側の居酒屋の前である。 THREE を取り囲む三方の通りと中新町の１地点の４か所。観光客が通る可能性が高い地点は新町通り、逆にニコニコ通り側は買い物客等が通ると整理になると考えられる。
委 員	商工会議所の調査結果を使用しているのか。
住宅まちづくり課	はい。朝の９時から夕方の１７時までの調査で平日の数字である。
委 員	人口の減り方と比べてどうか。

発 言 者	内 容
住宅まちづくり課	場所により増えているところと減っているところがあり、中でも中新町のドコモショップの前はスーパーが閉店した影響もあり減少している。一方でニコニコ通り側は増加している状況。そう考えると THREE による効果が出たのではないか。もう少し地点を増やせば平準化した数値が出せたと思うが、結果が人口減少と関連しているかどうかは分析していない。
委 員	指標の人口密度は居住誘導区域全域の平均か。
住宅まちづくり課	はい。ただ、THREE がある新町 1 丁目と中新町の新町 2 丁目の住所別の人口密度も調査しており、新町 1 丁目は平成 30 年時点で 287 人だったのが令和 6 年 10 月時点で 356 人と増えておりマンションの効果が出ている。新町 2 丁目は平成 30 年時点で 405 人だったのが令和 6 年 10 月時点で 452 人と増えており、市内全体の居住誘導区域の人口密度は若干減少しているなか、この区域については人口が増えている状況。
委 員	目標の設定は、国の補助金を使う場合必ず設定しなければならないのか。
住宅まちづくり課	整備計画の中で定めるべき事項として決まっている。